

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションガイド

目次

はじめに	3
Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの購入によって得られるもの	3
プロダクション環境向けのサポート	4
用語集	6
サブスクリプション・パッケージ・モデル	6
サブスクリプション注文の構成方法	7
サンプルワークシート 1: 物理レイヤーのプロビジョニング	8
サンプルワークシート 2: 仮想環境へのゲストの追加	9
サンプルワークシート 3: 仮想環境のセットアップ	9
サブスクリプションのシナリオと推奨	9
物理プロダクション環境	9
サンプルワークシート 4: ミッションクリティカルな物理プロダクション環境のセットアップ	10
仮想プロダクション環境	10
サンプルワークシート 5: ゲスト向けサブスクリプションの算定	11
サンプルワークシート 6: 仮想環境での Red Hat Enterprise Linux 向け サブスクリプションの算定	12
オープン・ハイブリッドクラウド	12
サンプルワークシート 7: プライベートクラウド向けサブスクリプションの算定	13
サンプルワークシート 8: パブリッククラウド向けサブスクリプションの算定	13
ハイパフォーマンス・コンピューティング (HPC)	14
障害復旧	14
開発環境	15
ワークステーション	15



fb.com/RedHatJapan
twitter.com/RedHatJapan
linkedin.com/company/red-hat



Red Hat Enterprise Linux

サブスクリプションの管理	16
サブスクリプションの更新	16
サブスクリプションの利用条件	17
システムの対応範囲	17
サポートサービスレベル	17
サブスクリプションとサービスの適切な使用	18
次のステップ	18
Red Hat カスタマーポータルへの登録	18
サブスクリプションの有効化	18
サブスクリプションの関連付け	19
ソフトウェアのダウンロード	19
Red Hat Enterprise Linux 製品	20



はじめに

Red Hat® Enterprise Linux® は、ハイブリッドデプロイに一貫した基盤を提供することで、お客様のビジネスを動かすアプリケーションを実行する際の制御、信頼性、そして自由度を実現します。Red Hat はフォーチュン 500¹ の企業の 90% 以上にパートナーとして信頼されており、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを利用すると、オープンソース・コミュニティに直接アクセスしてサポートを受けられるほか、数千ものクラウド、ソフトウェア、ハードウェア・プロバイダーからなるエコシステムも利用できます。

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションガイドは、デプロイする Red Hat Enterprise Linux のバージョンにかかわらず、お客様の技術的およびビジネス上の要件に最適なサブスクリプションを選ぶ際の重要な指針となります。サブスクリプションの利用条件の概要や、サブスクリプションの管理および更新に関する情報も記載されています。

このガイドは購入責任者や調達部門の担当者向けであり、アーキテクチャそのものよりも、アーキテクチャに合わせたサブスクリプションを選ぶための詳細事項を中心としています。一般的な開発および実稼働環境へのデプロイに対応する、シナリオベースのワークシートを用意しています。Red Hat カスタマーエクスペリエンス&エンゲージメント (CEE) をはじめとして、サポートサービスに対するサービスレベル契約 (SLA) など、お客様やユーザーが Red Hat サブスクリプションを活用するさまざまな方法を紹介しています。

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの購入によって得られるもの

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションへの投資には、大きく分けて 10 のメリットがあります。

製品およびサービス:

- 1. オープンソース・エンタープライズ・ソフトウェア:** Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションでは、オープンソースソフトウェアの制御されたサプライチェーンを通じて構築される、エンタープライズ対応の最新 Linux イノベーションを利用できます (パッチの継続的デリバリーや追加費用がかからないアップグレードなど)。さらに、複数のパブリッククラウド環境で Red Hat Enterprise Linux を利用できます。Red Hat Enterprise Linux を導入することで、Red Hat の他のポートフォリオと連携するように開発および認定されたプラットフォームを利用できます。
- 2. 先進のオープンソース・テクノロジー:** 信頼されるアドバイザーであり、オープンソース・コミュニティへの主要なコントリビューターである Red Hat は、先進テクノロジーと、それらをエンタープライズ向けソリューションに進化させるためのリソースを特定できる知見を有しており、将来にわたって IT のニーズを満たすことができます。
- 3. 修復、管理、自動化を備えた統合分析:** Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションでは、Red Hat Enterprise Linux 環境が最適な動作を続けられるように、Red Hat Insights を利用できます。Insights は環境に関する分析情報を収集し、可用性と安定性に影響を与える可能性のあるセキュリティの脅威、パフォーマンスのボトルネック、および構成ミスをお客様の IT チームがプロアクティブに特定して修復するのに役立つ SaaS (Software-as-a-Service) オファリングです。Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションは、Red Hat Smart Management や Red Hat Ansible® Automation Platform などのサブスクリプション・アドオンをサポートしています。
- 4. ライフサイクルサポートと柔軟性:** Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションは、メジャーバージョンに対して少なくとも 10 年間の継続的なサポートとパッチを提供します。また、すべてのマイナーアップデートでアプリケーションとカーネル・インタフェースの互換性を維持します。また、お客様の要件に最適なバージョンの Red Hat Enterprise Linux を導入し、お客様のスケジュールに応じてアップグレードできる柔軟性を備えています。

¹ Red Hat 顧客データとフォーチュン 500 リスト、2018 年 6 月。



- 5. サポートと専門知識:** Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションでは、電話とオンラインでのインシデントサポートに加えて、リファレンスアーキテクチャ、ドキュメント、動画、Red Hat エキスパートとのコラボレーティブなディスカッションなど、受賞歴のある知識ベースのサポートシステムを利用できます。さらに、Red Hat カスタマーポータルでは、サポートとベストプラクティスの共有だけでなく、継続的なセキュリティの脆弱性とその影響を緩和するための重要なステップに関する情報を提供します。
- 6. セキュリティリソース:** Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの利用料金は、リスクを監視して特定し、プロアクティブにユーザーへの通知を行う専任のエンジニアチームの資金として使われます。Red Hat セキュリティチームは、サポートされているライフサイクル期間にセキュリティパッチを作成してテストし、Red Hat Enterprise Linux の全バージョンに提供することにより、これらの脆弱性を修復します。さらに、Red Hat セキュリティエンジニアは、Red Hat Enterprise Linux などの製品が行政および商用のセキュリティ規格の認定基準を満たし、準拠していることを監視する責任があります。

支援:

- 7. Red Hat Enterprise Linux に対する可視性と影響力:** Red Hat はオープンソース・コミュニティのリーダーおよび主要なコントリビューターとして高い評価を受けており、お客様が求める要件の実装をアップストリーム・プロジェクトに対して提唱できます。Red Hat Enterprise Linux はこれらのアップストリーム・プロジェクトに基づいているため、サブスクリプションを利用するお客様は Red Hat Enterprise Linux のロードマップに影響を与えることができます。
- 8. オープンソース・プロジェクトにおけるお客様のニーズ:** Red Hat は、オープンソース・コミュニティでのリーダーシップと主要な貢献を通じて、お客様が必要としているものを提唱します。Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの利用料金は、お客様やパートナーの要件を将来の Red Hat Enterprise Linux に機能として実装することを提唱できるよう、アップストリーム・プロジェクトの継続的なサポート資金として使われます。
- 9. ハードウェア、ソフトウェア、クラウドプロバイダーとのパートナーシップ:** Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの利用料金は、Red Hat Enterprise Linux を認定済みの大規模なハードウェアエコシステムと統合するために必要なリソースの資金として使われます。これにより、認定済みのエンタープライズ・ソフトウェア・アプリケーションに安定した高性能プラットフォームが提供されます。サブスクリプションの利用料金は、Red Hat Enterprise Linux を実行し、すべての主要な認定クラウドプロバイダーと統合するために必要なエンジニアリングの資金としても使われます。
- 10. セキュリティのニーズ:** Red Hat はセキュリティ基準を定める団体からの信頼を得ており、コミュニティ、行政、業界団体にお客様の声を伝えることができます。Red Hat は、他の組織のさまざまなセキュリティチームとも提携しており、公開前の脆弱性情報にアクセスすることができます。

プロダクション環境向けのサポート

Red Hat のサポートはお客様とのコラボレーションを通して提供されます。Red Hat のサポートプロセスを利用すると、ソフトウェアの開発やテストの担当者として、基盤となるテクノロジーのオープンソース開発を目にする機会を得られます。ご連絡いただければ、インフラストラクチャの計画、テスト、デプロイ、保守、アップグレードのすべての段階で、Red Hat の専門知識を活用できます。このようなやり取りは、サブスクリプションの一環として利用できます。

Red Hat が提供するサポートには、開発とプロダクションの 2 つのモードがあります。このセクションではプロダクションのサポートについて説明します。このサポートは Red Hat のパートナーの協力により提供される場合があり、その場合はパートナーが初期の顧客エンゲージメントを担当します。開発サポートについては、このガイドの「開発環境」のセクションで説明しています。

プロダクション環境をカバーする Red Hat サブスクリプションには 2 つのサポートレベル (Standard と Premium) があり、初期応答時間と継続的応答時間を定義する SLA が異なります。

表 1. Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションのサービスレベル契約

サービス	Self-support	Standard	Premium
対象時間	なし	通常の営業時間	通常の営業時間 (重大度1と2の場合は年中無休)
サポート手段	なし	Web および 電話	Web および 電話
ケース数	なし	無制限	無制限
対応時間			
	Standard	Premium	
重大度	初期および継続的対応	初期対応	継続的対応
重大度 1 (緊急): プロダクション環境でのソフトウェアの使用に重大な影響を与える問題 (本番データの損失や本番システムの機能障害など)。この状況によってビジネス活動が停止し、手続きのな対策はありません。	1 営業時間	1 時間	1 時間
重大度 2 (高): ソフトウェアは機能しているが、プロダクション環境での使用が大きく制限される問題。この状況によって一部のビジネス活動に大きな影響が生じ、手続きのな対策はありません。	4 営業時間	2 時間	4 時間
重大度 3 (中): プロダクション環境または開発環境で、一部の重要ではないソフトウェアが使用できなくなる問題。プロダクション環境にとってビジネスへの中から低程度の影響があるが、手続きのな対策の使用などにより、ビジネス活動は続行できます。開発環境にとってはプロジェクトを続行できない、またはプロダクション環境に移行できない状況にあります。	1 営業日	4 営業時間	8 営業時間
重大度 4 (低): 使用方法に関する一般的な質問、ドキュメントの誤りの報告、または今後の製品強化または修正の提案。プロダクション環境にとって、ビジネスまたはシステムのパフォーマンスまたは機能に対する影響は低いか、影響はありません。開発環境にとってビジネスへの中から低程度の影響があるが、手続きのな対策の使用などにより、ビジネス活動は続行できます。	2 営業日	8 営業時間	2 営業日または合意済みの時間

用語集

ゲスト: 仮想マシン内で実行され、そのためハイパーバイザーでも実行される、ソフトウェアのインスタンス。Red Hat サブスクリプションモデルでは、ゲストは物理システムと関連付けられます。

物理モード: ソフトウェア全体またはその一部をインストールまたは実行する、物理システム。サーバー、ワークステーション、ラップトップ、ブレード、または状況に応じてその他の物理システムが該当します。

ソケット: マザーボード上の中央処理装置 (CPU) ソケット。

ソケットペア: 1つのシステム上にある最大 2つのソケットで、各ソケットには1つの CPU が搭載されています。それぞれ1つのソケットが占有されている 2 台のサーバーは、別個に計上する必要があります。つまり、各サーバーに1つずつ、合計 2 本のサブスクリプションを購入することになります。

スタッキング: 複数のサブスクリプションを購入して、マルチソケットマシンに対応する機能。たとえば、サブスクリプションのベースユニットは1つのソケットペアです。8 ソケットマシンに対応するには、4 本のソケットペア・サブスクリプションを購入することになります。

システム: ソフトウェア全体または一部をインストールまたは実行するシステム。システムには、インストールまたは実行されるソフトウェアの各インスタンスが含まれ、サーバー、ワークステーション、ラップトップ、仮想マシン、コンテナ、ブレード、ノード、パーティション、アプライアンス、エンジンが、状況に応じてこれに該当します。

仮想インスタンス: ハイパーバイザー上で実行される仮想マシン。仮想化環境でゲスト・オペレーティングシステムをデプロイした場合、サードパーティのオペレーティングシステムやその他の使用するソフトウェアに必要なライセンス権限を確保するのはお客様の責任になります。Red Hat サブスクリプションモデルでは、仮想インスタンスは物理システムとは関連付けられません。

仮想ノード: 仮想マシンまたはコンテナで、全体またはその一部が実行されるソフトウェア・インスタンス。

サブスクリプション・パッケージ・モデル

今日の複雑なインフラストラクチャ環境は、物理、仮想、クラウドのデプロイメントが組み合わされて構築されているため、柔軟に選択できる購入モデルが必要です。Red Hat Enterprise Linux Server サブスクリプション・モデルでは、購入のベースを選択でき、サブスクリプションをスタッキングして購入を効率化し、物理から仮想やクラウド、またはその逆にサブスクリプションを移行して変化する要件に対応することができます。

各物理ノードのソケットペアまたは 2 つの仮想ノード

Red Hat のお客様は、Red Hat Enterprise Linux 製品の購入を物理ベースにするか仮想ベースにするかを選択できます。Red Hat Enterprise Linux を物理ハードウェアにデプロイする場合、サブスクリプションは使用するシステム上のソケットペアの数がベースになります。このモデルは、物理ハードウェアへのプロビジョニング、または、クラウド内の仮想インスタンスとしてのプロビジョニングに最適です。仮想環境に Red Hat Enterprise Linux をデプロイする場合、サブスクリプションは製品を実行する仮想インスタンスペアの数がベースになります。このモデルは、密度が低から中程度の仮想環境に最適です。

このモデルが適用されるサブスクリプションには、以下のものがあります。

- Red Hat Enterprise Linux Server Standard および Premium
- Red Hat Enterprise Linux アドオン

Self-support サブスクリプションでは、次の点にご留意ください。

- Red Hat カスタマーサポートは利用できません。
- 物理システムにのみデプロイできます。
- 他のサブスクリプションとスタッキングできません。
- プロダクション環境向けではありません。

仮想デプロイ・サブスクリプション

Red Hat では、Red Hat Enterprise Linux 仮想インスタンスを個数無制限で実行できるサブスクリプション・モデルも提供しており、高密度の仮想環境に最適です。このサブスクリプション・モデルは物理ソケットペアをベースとして提供されます。

ゲスト数無制限のモデルが適用されるサブスクリプションには、以下のものがあります。

- Red Hat Cloud Infrastructure
- Red Hat OpenStack® Platform
- Red Hat Enterprise Linux for Virtual Datacenters
- Red Hat Enterprise Linux アドオン

スタッキング

スタッキングは、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを集約して、任意のサイズの物理サーバーに柔軟に適応できます。ベースの Red Hat Enterprise Linux モデルにはソケット 2 つの権利が含まれ、2 ソケットサーバーに対してはこれだけで十分です。4 ソケットサーバーの場合は、2 本の Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションが必要になります。同様に、8 ソケットマシンでは 4 本のサブスクリプションが必要です。このようにして、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを「積み上げて」、どのようなサイズのシステムにも拡張できます。さらに、物理インフラストラクチャが変更された場合、サブスクリプションを調整してインフラストラクチャに合わせることができます。サブスクリプションの数を増やさなくても、2 台の 2 ソケットシステムと 1 台の 4 ソケットシステムとを交換できます。当然ながら、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを新しいシステムに割り当てる必要があります。

転用

サブスクリプションを転用すると、別の観点での柔軟性が増します。Red Hat に連絡して利用条件を調整しなくても、2 ソケットの物理 Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを、仮想インスタンス 2 つのサブスクリプションに転用できます。仮想インスタンスのペアを物理ソケットペアに変換することもできます。インフラストラクチャを物理から仮想へ変換し、それに応じて Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションも転用できます。物理と仮想のデプロイメント間でサブスクリプションを転用する機能は、Red Hat Enterprise Linux Server とそのアドオンに適用されます。

サブスクリプション注文の構成方法

Red Hat Enterprise Linux Server のサブスクリプション・モデルには、以下の特徴があります。

- 各物理ノードのソケットペア、または 2 つの仮想ノードに基づく
- 物理、仮想、クラウドの各デプロイメントで使用できる
- スタッキング可能
- Standard または Premium サポートを選択可能

サブスクリプションの適正な本数と種類を決定する、基本的な質問があります。簡単にするため、質問では、物理環境または仮想環境のいずれかがあり、低密度環境であると仮定します。つまり、実行されるゲスト数はシステムあたり 4 以下とします。実際には、さまざまなハイパーバイザーがあるハイブリッド環境や、高密度と低密度の環境が混在している場合があります。「サブスクリプションのシナリオと推奨」のセクションでは、混在およびオープン・ハイブリッドクラウド・デプロイ環境の例をいくつか取り上げます。

1. 購入するサブスクリプションの対象は、物理環境と仮想環境のどちらですか。回答が物理環境なら、ステップ 2 に進みます。仮想環境なら、ステップ 3 に進みます。
2. 購入するサブスクリプションの対象は、物理環境です。各種のソケット構成ごとに、いくつのシステムがありますか。標準的なシステム構成は、1 ソケット、2 ソケット、4 ソケット、8 ソケットです(シングルプロセッサ・システムは、1つのソケットペアとします)。
3. (a) 保有する 1 ソケットシステムの数を数えます。それぞれに、ソケットペア・サブスクリプションが個別に必要です。つまり、ソケットペア・サブスクリプションを 2 つのシステムに分割することはできません。
4. (b) 残りのソケットの数を 2 で割り、結果を 1 ソケットシステムの数に足します。この合計が、物理サーバーを利用するために購入するサブスクリプションの数になります。
5. 購入するサブスクリプションの対象は、仮想インスタンスです。いくつのインスタンスが必要ですか。
6. (a) 仮想インスタンスの数を 2 で割ります。これが、仮想環境内のゲストに購入するサブスクリプションの数です。
7. どのアドオンを購入しますか。アドオンは、Red Hat Enterprise Linux Server サブスクリプションに使用したのと同じ方法で算定する必要があります。たとえば、Red Hat Enterprise Linux Server サブスクリプションがソケットペアベースの場合、このサーバーの Red Hat Enterprise Linux High Availability Add-On もソケットペアベースになります。アドオンのサブスクリプションは、サーバーのサブスクリプションと同様に、ソケットペアから仮想インスタンスペアに転用できます。
8. デプロイメントには、Standard と Premium のどちらのサポートサービスレベルが必要ですか。

以下のワークシートは、単純なデプロイシナリオの計算例を示しています。

サンプルワークシート 1: 物理レイヤーのプロビジョニング

算定方法	システム	ソケットペア	サブスクリプション
1 ソケットシステムの数	10	10	10 (システムあたり 1 本)
2 ソケットシステムの数	10	10	10 (ソケットペアあたり 1 本)
4 ソケットシステムの数	2	4	4 (ソケットペアあたり 1 本)
8 ソケットシステムの数	2	8	8 (ソケットペアあたり 1 本)
購入するサブスクリプションの数			32

サンプルワークシート 2: 仮想環境へのゲストの追加

算定方法	数
ゲスト数	20
ゲスト数を 2 で割って購入するサブスクリプション数を算出	10

サンプルワークシート 3: 仮想環境のセットアップ

Red Hat は、Red Hat Enterprise Linux Server が提供する仮想化機能 (Kernel-based Virtual Machine ハイパーバイザーに基づく) により、最大 4 つの同時実行ゲストをサポートします。ソケットペアあたり 5 つ以上の Red Hat Enterprise Linux ゲストを使用する予定なら、Red Hat Enterprise Linux with Smart Virtualization または Red Hat OpenStack Platform のサブスクリプションの購入をお勧めします。これらのソリューションは仮想化のユースケース向けで、このような種類のデプロイメントに対して全体的なコスト効率に優れています。さらに複雑な仮想化環境については、「サブスクリプションのシナリオと推奨」のセクションをご覧ください。

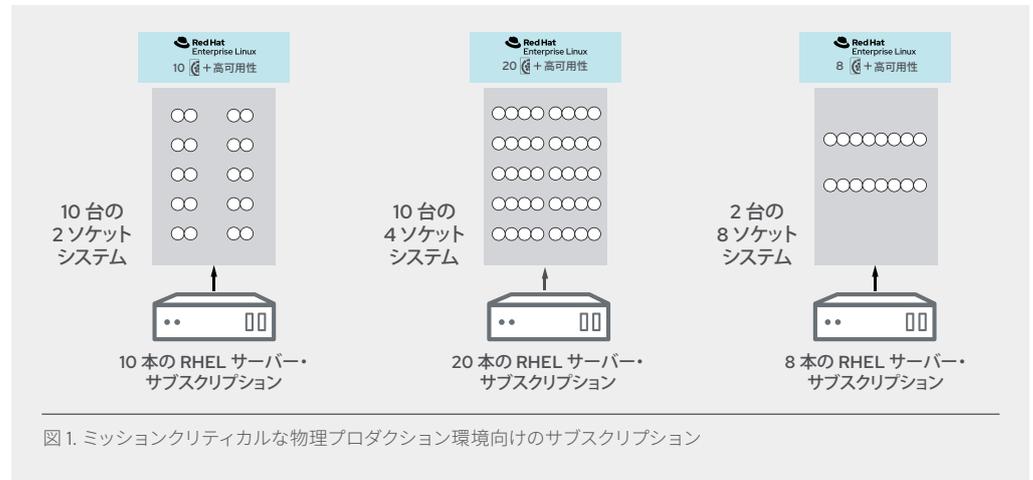
ハイパーバイザー向けの算定方法	ソケットペア	サブスクリプション
1 ソケットシステムの数	10	10 (システムあたり 1 本)
2 ソケットシステムの数	10	10 (ソケットペアあたり 1 本)
4 ソケットシステムの数	2	4 (ソケットペアあたり 1 本)
8 ソケットシステムの数	2	8 (ソケットペアあたり 1 本)
ハイパーバイザーに購入するサブスクリプションの数		32
ゲスト向けの算定方法		
ゲスト数		40 (仮想インスタンス)
ゲスト数を 2 で割って購入するサブスクリプション数を算出		20
購入するサブスクリプションの総数		52

サブスクリプションのシナリオと推奨

このセクションのサブスクリプションのシナリオは、前述のワークシートを発展させ、実際のデプロイメントに見られる高可用性などの要素を追加しています。

物理プロダクション環境

物理プロダクション環境には一般にソケット数が 1、2、4、8、またはそれ以上のサーバーがあり、可用性、パフォーマンス、または拡張性を強化するために Red Hat アドオンが追加されていることがよくあります。図 1 に、ミッションクリティカルなプロダクション環境に対応するために必要な Red Hat Enterprise Linux Server のサブスクリプションの数を示します。



サンプルワークシート 4: ミッションクリティカルな物理プロダクション環境のセットアップ

算定方法	ソケットペア
ソケット数	76
ソケット数を 2 で割って Red Hat Enterprise Linux Server のサブスクリプション数を算出	38
High Availability Add-On のサブスクリプション数	38

仮想プロダクション環境

仮想環境には、ハイパーバイザーをホストする物理サーバーに加えて、仮想ゲストが含まれます。図 2 に示す構成では、ハイパーバイザーは Red Hat Virtualization で、ゲストはすべて Red Hat Enterprise Linux であると仮定しています。この構成は低密度のプロダクション環境で、ハイパーバイザーで同時実行されるゲスト数は 4 以下です。

注意: Red Hat では、Red Hat Enterprise Linux Server 上のハイパーバイザーで実行される、サポート対象のあらゆるオペレーティングシステム上で、最大 4 つの同時実行ゲストをサポートします。ハイパーバイザーあたり 5 つ以上のゲストを実行させるには、Red Hat Virtualization を検討してください。大規模仮想化向けにサポートされるハイパーバイザーと管理ツールを提供します。

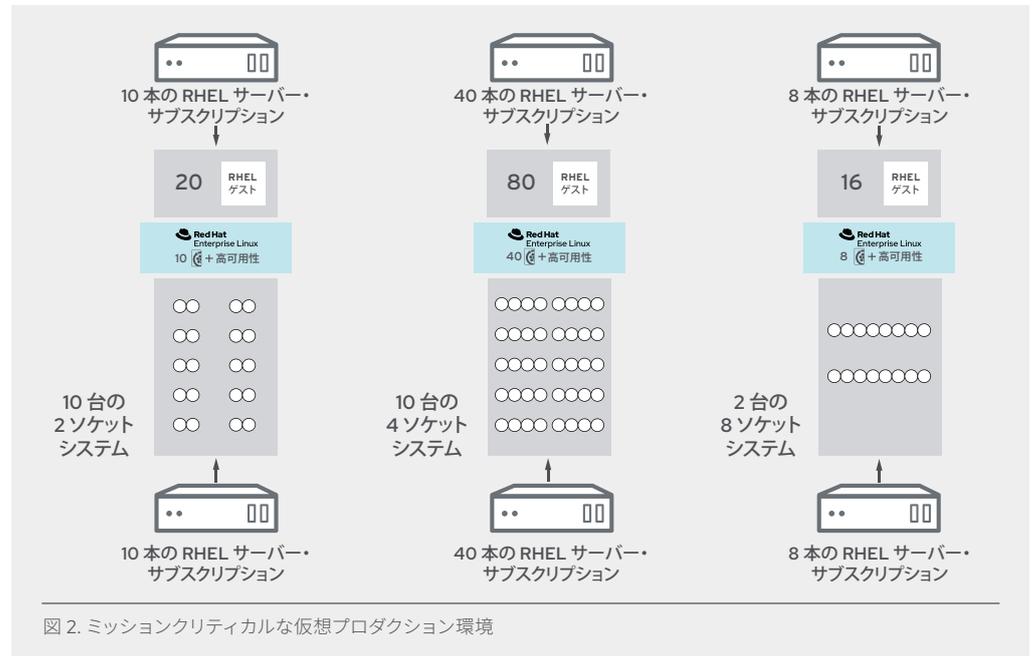


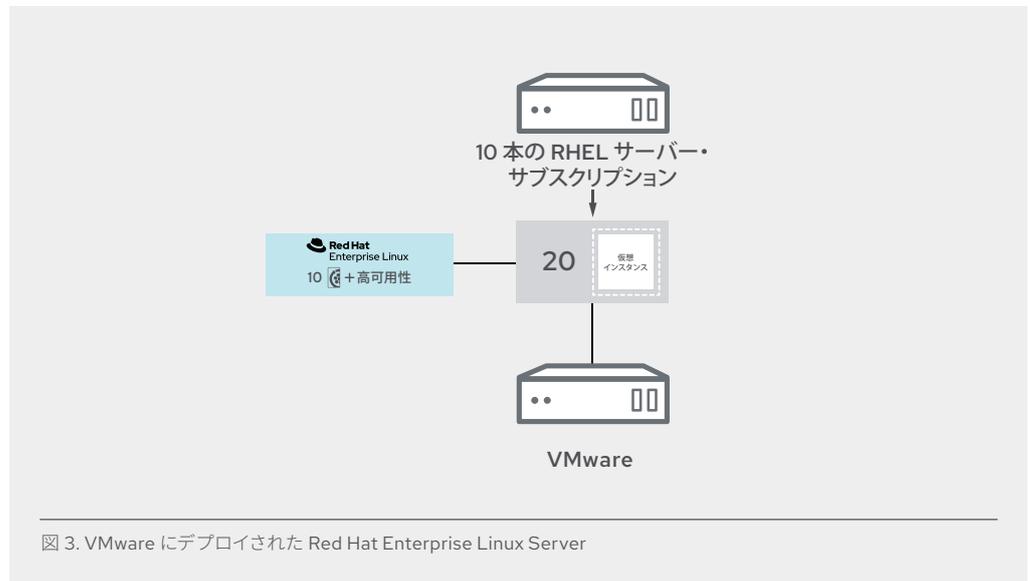
図 2. ミッションクリティカルな仮想プロダクション環境

図 2 は、仮想ゲストが追加されている点を除いて、図 1 と同じです。前提条件として、ミッションクリティカルな環境では、このクラスターの各ノードは高可用性で実行される必要があります。仮想化プロダクション環境には、物理プロダクション環境と同じ High Availability Add-Ons が存在することがあります。以下のワークシートは、追加されたゲスト向けの算定方法を示します。

サンプルワークシート 5: ゲスト向けサブスクリプションの算定

ゲスト向けの算定方法	仮想インスタンス	注
ゲスト数	116	インスタンスベースの仮想パッケージには物理システムまたはソケットペアの算定は不要です。
ゲスト数を 2 で割って Red Hat Enterprise Linux Server のサブスクリプション数を算出	58	これらのサブスクリプションは物理ソケットペアのサブスクリプションに転用できます。

図 3 のシナリオでは、仮想化環境は 100% Red Hat Enterprise Linux 環境であると仮定しています。図 3 に、ハイパーバイザーが VMware でゲストが Red Hat Enterprise Linux である環境を示します。



以下のワークシートは、図 3 のデプロイに対応するために必要なサブスクリプションの算定方法を示しています。

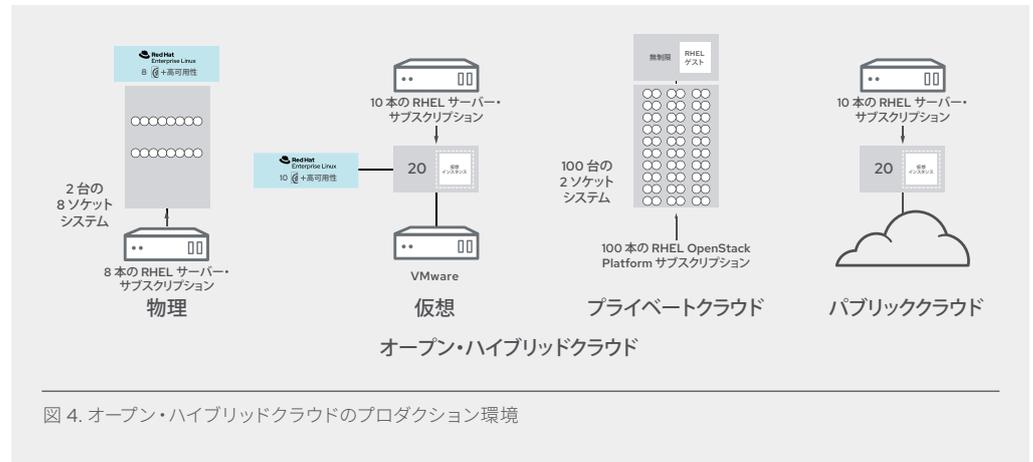
サンプルワークシート 6: 仮想環境での Red Hat Enterprise Linux 向けサブスクリプションの算定

ゲスト向けの算定方法	仮想インスタンス	注
ゲスト数	20	
ゲスト数を 2 で割って Red Hat Enterprise Linux Server のサブスクリプション数を算出	10	これらのサブスクリプションは物理ソケットペアのサブスクリプションに転用できます。
High Availability Add-On のサブスクリプション数	10	すべてのアドオンを仮想インスタンスで使用できます。これらのサブスクリプションは物理ソケットペアのサブスクリプションに転用できます。

オープン・ハイブリッドクラウド

Red Hat ではオープン・ハイブリッドクラウドを、物理、仮想、プライベートクラウドまたはパブリッククラウドのデプロイを含む環境と定義しています。Red Hat Enterprise Linux ポートフォリオには、このすべての環境に対応するサブスクリプションがあります。以下の例は、前述の例を基にしています。図 4 では、物理環境と仮想環境は同じですが、プライベートクラウド・コンポーネントが追加されています。

Red Hat のオープン・ハイブリッドクラウド・ポートフォリオを構成するアーキテクチャと製品の詳細については、<https://www.redhat.com/ja/topics/cloud-computing/what-is-hybrid-cloud> をご覧ください。



オープン・ハイブリッドクラウドの物理ホストシステムとゲストは、Red Hat OpenStack Platform のサブスクリプション対象です。以下のワークシートは、プライベートクラウドおよびパブリッククラウド向けのサブスクリプション購入の算定方法です。

サンプルワークシート 7: プライベートクラウド向けサブスクリプションの算定

物理マシン向けの算定方法	ソケットペア	注
ソケット数	200	
ソケット数を 2 で割って Red Hat OpenStack Platform のサブスクリプション数を算出	100	この例には 1 ソケットシステムはありません。
ゲスト向けの算定方法	仮想インスタンス	
プライベートクラウドのゲスト数	無制限	
Red Hat OpenStack Platform サブスクリプションには無制限のゲスト数が含まれる	0	

サンプルワークシート 8: パブリッククラウド向けサブスクリプションの算定

パブリッククラウド向けの算定方法	仮想インスタンス	注
仮想インスタンス数	20	
仮想インスタンス数を 2 で割って Red Hat Enterprise Linux Server のサブスクリプション数を算出	10	これは物理サーバーの場合と同じ種類のサブスクリプションです。デプロイ先の環境を、物理、仮想、またはクラウドから選択できます。

ハイパフォーマンス・コンピューティング (HPC)

ここで取り上げるのは、HPC 環境に必要なサブスクリプションです。

HPC のユースケース

- ヘッドノード：Red Hat Enterprise Linux for High-Performance Computing (HPC) ヘッドノード・サブスクリプションを使用します。
- コンピュートノード：Red Hat Enterprise Linux for HPC コンピュートノード・サブスクリプションを使用します。
- グラフィック処理装置 (GPU) 搭載コンピュートノード：Red Hat Enterprise Linux Standard サブスクリプションを使用します(特別料金が必要になる場合があります)。
- グラフィック処理装置 (GPU) 搭載グラフィックノード：Red Hat Enterprise Linux Standard サブスクリプションを使用します(特別料金が必要になる場合があります)。
- ログインノード：Red Hat Enterprise Linux Standard サブスクリプションを使用します。
- ストレージノード：Red Hat Enterprise Linux Standard サブスクリプションを使用します。

障害復旧

障害復旧は、プロダクション環境設計において重要な要素です。Red Hat Enterprise Linux には障害復旧システム向けの購入ポリシーがあり、ホット、ウォーム、コールドバックアップという、一般的なシナリオに対処します。

ホットバックアップ：サーバーは頻繁に稼働状態になり、即座にプロダクションモードになる準備が整っています。これは一般に、クラスタ内の「フェイルオーバー」による動作です。

この場合、プロダクションサーバーに 1 本、ホットバックアップ・サーバーに 1 本の、合計で 2 本のサブスクリプションが必要です。ホットバックアップが必要な各サーバーについて、サブスクリプションの SLA や構成は同一である必要があります。ホットバックアップ障害復旧サブスクリプションのメーカー推奨価格 (MSRP) は、標準サブスクリプションの MSRP と同額です。

ウォームバックアップ：サーバーは定期的にオンになり、プロダクションサーバーからデータのバックアップや Red Hat Content Delivery Network からアップデートを受信します。定期アップデートの実行間隔が 60 日より短くなることはありません。ウォームバックアップは、たとえばミラーリング、レプリケーション、ログ配布などの事例に使用されます。

この場合、2 本のサブスクリプションが必要です。1 本は通常のプロダクション用途、1 本は障害復旧サブスクリプション用途として使用されます(ウォームバックアップ障害復旧サブスクリプションの MSRP は、標準サブスクリプションの MSRP から 50% 割引されます)。

コールドバックアップ：サーバーにソフトウェアがインストール済みで構成済みですが、障害が発生するか、定期的な障害復旧手順のテストが行われない限り、オフになっています。Red Hat Enterprise Linux の場合、お客様は一部をあらかじめロードしておくことができます。ただし、障害が発生しない限り Red Hat Content Delivery Network を使用してシステムのアップデートを行うことはできません。障害発生時には、障害が発生したマシンの支払い済みサブスクリプションがコールドバックアップサーバーに移転されます。

この場合、お客様には 2 本のサブスクリプションは必要ではありません。お客様が使用するのは常に 1 本のサブスクリプションだけです。Red Hat のサブスクリプションをご利用のお客様は、ソフトウェアの一部をコールド・バックアップ・マシンにあらかじめプロビジョニングできます。ただし、このように事前プロビジョニングしたサーバーをコールドバックアップのユースケース以外に使用したために、実行されている Red Hat Enterprise Linux のユニット数がおお客様のサブスクリプション数を超過した場合、お客様は Red Hat にその分のサブスクリプション料金を支払う義務があります。



開発環境

Red Hat Enterprise Linux には、開発チームをサポートするさまざまな種類のサブスクリプションがあります。サブスクリプションを選択する際には、チームの規模と必要なサポートレベルが判定要因となります。

1. チームの規模

- 25 名以上のチームの場合、Red Hat Enterprise Linux Developer Support、Professional には、対応時間が 2 営業日の開発者サポートが含まれています。
- 25 名以上のチームの場合、Red Hat Enterprise Linux Developer Support、Enterprise には、対応時間が 4 時間という最高レベルの開発者サポートが含まれています。
- 個人のコントリビューター、または 25 名未満のチームの場合、Red Hat Enterprise Linux Developer Workstation によって Red Hat Enterprise Linux Developer Support サブスクリプションと同じツールと製品を利用できますが、個人ベースで購入できます。

2. サポートサービス

- Self-support では、ソフトウェアアップデート、Red Hat ナレッジベース、Red Hat カスタマーポータル の技術コンテンツを利用できます。Red Hat が提供している、電話または Web によるサポートは利用できません。
- Professional サポートには、標準営業時間内の Web および電話による回数無制限の問い合わせが追加され、対応時間は 2 営業日です。
- Enterprise サポートでも、標準営業時間内の Web および電話による回数無制限の問い合わせを利用できますが、対応時間は 4 営業日です。

すべての開発サブスクリプションには Red Hat Enterprise Linux Developer Program への加入権が含まれており、開発者は Red Hat Enterprise Linux を最大限に活用できるよう支援します。Red Hat Enterprise Linux Developer Program は、カスタムアプリケーションを構築するエンドユーザー、ポータブル・アプリケーションを開発する独立系ソフトウェアベンダー (ISV) および付加価値再販業者 (VAR)、顧客向けにアプリケーションをカスタマイズするシステムインテグレーターを対象とするプログラムで、開発者ツール、サブスクリプション、サポート、トレーニングを利用できます。

ワークステーション

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの別のカテゴリとして、Workstation があります。このサブスクリプションはインストールしたシステム単位で購入します。サブスクリプションの選択の際には、ユーザーの要件を検討してください。

- 複雑なアプリケーション、特にグラフィックを多用するアプリケーションのユーザー：Red Hat Enterprise Linux Workstation
- アプリケーション開発者：Red Hat Enterprise Linux Developer Workstation

これらのサブスクリプションは、2 つある Developer サポートオプションのいずれかで購入できます。Professional の場合は対応時間が 2 日間で、Enterprise の場合の対応時間は 4 時間です。

表 2. Workstation サブスクリプションの技術仕様

	Red Hat Enterprise Linux Workstation	Red Hat Enterprise Linux Developer Workstation
x86 (32、64)	○	○
最大物理 CPU (ソケット)	2	2
最大メモリー	無制限	無制限
最大仮想化ゲスト数	1または4	1または4

サブスクリプションの管理

Red Hat では、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの管理に役立つサービスやツールを用意しています。

- Red Hat カスタマーポータル:** 物理か仮想かを問わず、システムを Red Hat カスタマーポータルに登録して接続できます。最新バージョンのソフトウェアの入手、Red Hat ナレッジベースの参照、製品ドキュメントの閲覧、最新のバグ修正、セキュリティエラー、機能拡張の入手が可能です。
- Red Hat Satellite:** Red Hat Satellite は、パッチ管理、プロビジョニング、構成管理、そして Red Hat Enterprise Linux システムの適切なセキュリティ保護、効率的な運用、各種基準への準拠のための機能を提供します。また、割り当てられた利用可能なサブスクリプションと有効期限に関する詳細なレポートを提供して、サブスクリプション・インベントリーの管理を支援します。Red Hat Satellite を取得するには、すべての管理対象システムに対して Red Hat Smart Management サブスクリプションを別途購入する必要があります。

Red Hat サブスクリプションを管理して、提供されるサービスとツールを活用するには、Red Hat Enterprise Linux に付属の Red Hat サブスクリプション管理 (またはコマンドライン・インタフェース) を使用してシステムを登録する必要があります。手順については、製品マニュアルを参照してください。システムが登録されると、サブスクリプションをこのシステムに関連付けて、ダウンロードとインストールプロセスを開始できるようになります。

サブスクリプションの更新

Red Hat サブスクリプションは、貴社が Red Hat と締結した契約に従い、一定期間のみ有効です。1年間のサブスクリプションが最も一般的です。テクニカルサポート、セキュリティパッチ、製品アップグレード、パートナーとエキスパートのエコシステムへのあらゆる面への参加など、Red Hat サブスクリプションのすべてのメリットを失わずに利用し続ける唯一の方法は、期限切れになる前に更新することです。

サブスクリプションの有効期限の 90 日前、60 日前、および 30 日前になると、契約で指定された担当者から Red Hat から通知の E メールが届きます。この通知にはサブスクリプションを更新する手順が記載されています。更新方法は、サブスクリプションの購入方法によって異なります。E メールが届かない、または誤った担当者に送信されたと思われる場合は、Red Hat Customer Service (1-888-733-4281) までご連絡ください。



サブスクリプションの利用条件

このセクションでは、Red Hat エンタープライズ契約の付録 1 に規定され、Red Hat サブスクリプションに適用される利用条件の一部をまとめます。付録 1 は法的拘束力のある文書で、このガイドの記載内容よりも付録 1 の条項が優先されます。不明な点がある場合は、Red Hat の営業担当者までお問い合わせください。

システムの対応範囲

- 組織内の Red Hat Enterprise Linux がインストールされているすべてのシステムと仮想インスタンスにサブスクリプションを購入する必要があります。たとえば、Red Hat Enterprise Linux が 5 台の開発マシンと 10 台の 2 ソケット・プロダクション・システムにインストールされている場合、これらのマシンを対象にできるサブスクリプションを購入する必要があります。これらがすべて 2 ソケットマシンの場合、プロダクションシステムをカバーするためには 5 本の開発者サブスクリプションと 10 本のサブスクリプションを購入する必要があります。
- サブスクリプションの総数がインストールされたシステムの総数と一致していれば、サブスクリプションを追加購入しなくても、同様の特性を持つシステムにサブスクリプションを移転することができます。
- Red Hat Enterprise Linux Server と関連するアドオンのサブスクリプションを、物理環境と仮想およびクラウドデプロイ環境との間で移行できます。サブスクリプションの利用条件の変更、サブスクリプションの追加購入、Red Hat への通知は不要です。たとえば、物理マシンに割り当てた 1 つのソケットペア向けにサブスクリプションを購入した場合、このソケットペアのサブスクリプションを仮想化またはクラウドデプロイの 2 つの仮想インスタンスを対象とするサブスクリプションに転用できます。その後、2 つのインスタンス向けのサブスクリプションを 1 つのソケットペアの割り当てに戻すことができます。
- Red Hat Enterprise Linux Server 以外のサブスクリプションを、Red Hat から書面による許可を得ることなく、オフサイトまたはクラウドに移行することはできません。詳細については、Red Hat エンタープライズ契約の付録 1 を参照してください。

サポートサービスレベル

- Red Hat サブスクリプションを購入するとき、サポートサービスのレベルを選択します。開発者向けサポートレベルは Professional と Enterprise、プロダクション向けのサポートレベルは Self-support (一部の地域と Red Hat Enterprise Linux Server Entry Level, Self-support でのみ利用可能)、Standard、および Premium です。
- 開発者向けサポートでは、インストール、使用方法、問題診断、バグ修正のサポートを受けられます。アプリケーションのアーキテクチャ、設計、開発、プロトタイピングについてのアドバイスも得られます。補足チャネルやプレビュー・テクノロジーから利用できるソフトウェアはサポートされません。
- プロダクション向けサポートでは、プロダクション用に使用されるソフトウェアのインストール、アプリケーションのテスト、使用方法、問題診断、バグ修正のサポートを受けられます。コード開発、システム設計、ネットワーク設計、アーキテクチャ設計、最適化、チューニングの推奨、セキュリティまたはポリシーの開発または実装、Red Hat ソフトウェアから使用できるサードパーティ・ソフトウェア、補足チャネル、プレビュー・テクノロジーについては、支援を受けられません。
- Red Hat Insights は、Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションに含まれており、主要な管理サービスを提供します。環境をプロアクティブに分析し、セキュリティ、パフォーマンス、可用性、および安定性における潜在的なリスクを特定し、修復ガイダンスを提供します。システム管理者は、エージェントを有効にするだけで、これらの領域での潜在的な問題に関する日次レポートを取得できます。Red Hat Insights はシステム管理者に、ダウンタイムなどの問題を最小限に抑えるために必要な情報を提供します。



- サブスクリプションは異なるサポートレベルで購入できます。たとえば、ミッションクリティカルなワークロードに対して Premium サポートサービスのサブスクリプションを購入し、重要度の低いワークロードには Standard サポートサービスのサブスクリプションを購入できます。ただし、レベルの高いサポートサービスを使用して、レベルの低いサポートサービスを割り当てたシステムのサポートを受けることはできません。たとえば、Standard サポートのシステムのサポートを依頼して、別のサブスクリプションに基づく Premium サポートを要求することはできません。
- アドオンは、関連付けられている Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの基礎となる SLA を継承します。たとえば、High Availability Add-On が Red Hat Enterprise Linux Server の Premium SLA サブスクリプションに関連付けられている場合、High Availability の Premium SLA が継承されます。

サブスクリプションとサービスの適切な使用

- Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションの評価版は、所定の期間を超えて使用したり、評価の利用条件に明示的に規定された目的以外に使用したりすることはできません。
- ソフトウェアおよびサポートサービスのサブスクリプションは、社内利用のみに限定されます(「社内」には関係会社を含みます)。サブスクリプションをサードパーティに譲渡することはできません。
- サブスクリプションを想定外のユースケースに使用することはできません。たとえば、Red Hat Enterprise Linux Workstation サブスクリプションをプロダクションサーバーとして使用することはできません。また、開発者サブスクリプションを使用してプロダクション向けのサポートを受けることはできません。

次のステップ

Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションを購入した後、チームがサブスクリプションを使用して含まれるソフトウェアとサービスを活用する前に、完了すべき手順があります。

1. Red Hat カスタマーポータルに登録する
2. サブスクリプションを有効化する
3. サブスクリプションを関連付ける
4. ソフトウェアをダウンロードする

Red Hat カスタマーポータルへの登録

組織で Red Hat サブスクリプションの価値を最大限に活用する最初のステップは、Red Hat カスタマーポータルへの登録です。IT 組織の誰もが登録できます。アカウントごとの登録者数に制限はありません。

カスタマーポータルはサブスクリプション管理サービスとツールへの玄関口であり、サブスクリプションの有効化、権利付与、更新、管理、レポート処理を実行できます。これらのサービスとツールに加えて、カスタマーポータルにはナレッジベースと情報リソースの広範なライブラリがあり、初心者からエキスパートまでさまざまなユーザーをサポートします。

サブスクリプションの有効化

サブスクリプションを注文する前に Red Hat アカウントを作成した場合は、このステップを省略できます。ソフトウェアはアカウントに配信済みなので、エンタイトルメント・プロセスを開始できます。

サブスクリプションを注文した後に Red Hat アカウントを作成した場合は、まずサブスクリプションを有効化します。チームがインストールするソフトウェアに対応するサブスクリプションを有効化する必要があります。たとえば、Red Hat Enterprise Linux Server のサブスクリプションのみを有効化している場合、Red Hat Enterprise Linux Desktop をダウンロードすることはできません。

カスタマーポータル の [Subscription (サブスクリプション)] タブにあるツールを使用して、サブスクリプションを有効化します。サブスクリプション有効化ツールで、Red Hat から E メールで受け取った製品アクティベーション・コード (サブスクリプション番号とも呼ばれます) を入力します。その後、ソフトウェアのダウンロードを開始できます。

サブスクリプションの関連付け

最後のステップとして、システムを登録してサブスクリプションを関連付けます。サブスクリプションをシステムに関連付けるプロセスは、Red Hat サブスクリプション管理サービスまたは使用するツールによって異なります。サブスクリプションのインベントリーの関連付け、管理、レポート、更新の手順については、該当する Red Hat 製品のマニュアルを参照してください。

ソフトウェアのダウンロード

組織の管理者によってソフトウェアをダウンロードする権限が付与されているチームメンバーは、ソフトウェアのダウンロードとインストールを開始できます。デフォルトでは、Red Hat アカウントを最初に作成したユーザーが管理者です。管理者は、複数の管理者をアカウントに指名できます。

Red Hat Enterprise Linux 製品

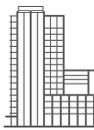
Red Hat 製品はサブスクリプション・ベースで利用できます。

製品	説明
Red Hat Enterprise Linux Workstation	より強力なシステムで作業する高度な Linux ユーザー向けの Red Hat Enterprise Linux Workstation は、Red Hat Enterprise Linux Desktop クライアントなどに含まれる機能やアプリケーションを提供します。Red Hat Enterprise Linux Workstation にはデプロイメントツールが付属し、Red Hat Enterprise Linux Desktop のプロビジョニングと管理の効率とコスト効果が高くなります。また、グラフィック、アニメーション、科学計算などの高パフォーマンスアクティビティに最適化されます。
Red Hat Enterprise Linux Developer Workstation	コード開発とテストに柔軟な環境を必要とするソフトウェア開発者向けに、Red Hat Enterprise Linux Developer Workstation は Red Hat Enterprise Linux Workstation の全機能と、Red Hat Enterprise Linux Developer Suite のコンテンツを組み合わせ、開発とテストの目的に対応します。
開発者	
Red Hat Enterprise Linux Developer Suite	Red Hat Enterprise Linux Developer Suite サブスクリプションには、Red Hat Enterprise Linux Server、High Availability Add-On、Load Balancer Add-On、Resilient Storage Add-On、Scalable File Systems Add-On、Extended Update Support Add-On、Red Hat Smart Management、Red Hat Enterprise Linux for Real Time、Red Hat Software Collections、および Red Hat Developer Toolset が含まれています。このサブスクリプションは、Developer サポートサービス (Professional と Enterprise) または Production サポートサービス (Standard と Premium) では利用できません。このサブスクリプションの内容は開発目的専用で、プロダクション環境では使用できません。
Red Hat Enterprise Linux Developer Support, Professional	Red Hat Enterprise Linux Developer Support, Professional は、開発者関連のインシデントに 2 営業日に対応します。25 種類の Developer Suite サブスクリプションを含み、サポートインシデントに回数無制限で対応します。Developer は Red Hat にサポートコールを行う連絡担当者を 1 名指定します。このサブスクリプションでは Enterprise サポートを利用でき、インシデントレポートに 4 時間に対応します。このサブスクリプションは開発目的専用です。

製品	説明
Platform ポートフォリオ	
Red Hat Enterprise Linux Server	Red Hat Enterprise Linux Server は、物理システム上に、ハイパーバイザー上のゲストとして、またはクラウド内にデプロイできる、汎用プラットフォームです。このサブスクリプションは、物理マシンで使用する場合はソケットペアで、または仮想マシンで使用する場合はインスタンスペアベースで購入できます。サブスクリプションはスタッキングできます。たとえば、2 つのサブスクリプションをスタッキングして、1 台の 4 ソケット物理サーバーのサブスクリプション要件を満たすことができます。または、2 本のサブスクリプションをスタッキングして 4 台の仮想マシンに対応することもできます。
Red Hat Enterprise Linux Server Entry Level, Self-support	Red Hat Enterprise Linux Server Entry Level は物理システムにのみデプロイできます。Self-support のみ利用できます。このサブスクリプションはスタッキングできません。Red Hat Smart Management は、このサブスクリプションで購入できる唯一のアドオンです。このサブスクリプションはプロダクション環境向けではなく、Red Hat Software Collections の利用対象になりません。
Red Hat Enterprise Linux for Power	Power Systems の高度なハードウェア機能と Red Hat Enterprise Linux の一貫性と柔軟性を使用して、アプリケーションをデプロイできます。
Red Hat Enterprise Linux for IBM z Systems	10 年以上にわたる業界連携をベースに開発された Red Hat Enterprise Linux for IBM z Systems は、Linux アプリケーションをメインフレームに統合します。
Red Hat Enterprise Linux for SAP® Solutions	SAP アプリケーションの最適な運用に必要なインフラストラクチャ・ソフトウェア・スタックで、SAP デプロイメントを効率化できます。
Red Hat Enterprise Linux for Virtual Datacenters	サポート対象のハイパーバイザー (Red Hat Virtualization、VMware、Microsoft Hyper-V) 上の高密度の仮想化環境に、ゲストを無制限にデプロイできます。このサブスクリプションは物理環境での使用はできません。Red Hat Enterprise Linux for Virtual Datacenters をプールするとき、クラスタ内のすべてのホストについて同一の SLA を購入する必要があり、クラスタ内のすべてのホストをサブスクリプションに登録する必要があります。
Red Hat Enterprise Linux アドオン	
High Availability Add-On	High Availability Add-On では、クラスタ内のノード間でフェイルオーバーサービスを使用できるので、アプリケーションの可用性が向上します。最大 16 個のノードをサポートし、カスタマイズ可能なエージェントを使用する大半のアプリケーションや仮想ゲスト向けに構成できます。このサブスクリプションはソケットペアまたは仮想インスタンスペアをベースに購入できます。

製品	説明
Resilient Storage Add-On	Resilient Storage Add-On は、クラスタファイルシステムが、同じブロックストレージ・デバイスにネットワーク経由でアクセスできるようにします。サーバーのクラスタに一貫したストレージを提供し、いずれかのサーバーに障害が発生しても保護されたグループ内の各サーバーが使用できるデータのプールを作成します。Resilient Storage Add-On には High Availability Add-On が含まれています。このサブスクリプションはソケットペアまたは仮想インスタンスペアをベースに購入できます。
Load Balancer Add-On	Load Balancer Add-On は、Web 運用、データベース、ネットワーク、ストレージの冗長性を提供して、スループットを最大化し、対応時間を短縮し、信頼性と稼働時間を増加させます。実サーバーに転送して負荷分散またはトラフィックシェーピングを実現する仮想アドレスを作成し、ブラウザベースのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用して、管理者はサーバーをすばやく追加または除外したり、物理、仮想、クラウドのインスタンス上で負荷分散アルゴリズムを変更したりすることができます。このサブスクリプションはソケットペアまたは仮想インスタンスペアをベースに購入できます。
Scalable File System Add-On	Scalable File System Add-On は、100 テラバイトまでの容量のファイルシステムをサポートし、エンタープライズ・ワークロードを処理する大規模システム上で最高レベルのパフォーマンスを発揮するファイルシステムとします。このアドオンにより、XFS [®] ファイルシステムを使用できるようになり、非常に大きなファイルとファイルシステムを 1 つのホストでサポートするほか、マルチスレッドの平行入出力 (I/O) ワークロードを実行する小規模システムでも良好な性能を発揮します。このサブスクリプションはソケットペアまたは仮想インスタンスペアをベースに購入できます。
Extended Update Support Add-On	Extended Update Support Add-On は、特定の Red Hat Enterprise Linux マイナーリリースのサポート期間を一般提供後から最大 24 カ月まで延長し、Red Hat Enterprise Linux および新規サーバーハードウェアの新機能を導入する時期を、お客様が柔軟に決定できます。社内要件に基づいてリソースおよびデプロイサイクルを効果的に計画し、システムのセキュリティを維持できます。このサブスクリプションは、Red Hat Enterprise Linux Standard サブスクリプションではソケットペアまたは仮想インスタンスペアをベースに購入できません。Premium サブスクリプションに付属し、追加コストは不要です。Extended Update Support Add-On は、Red Hat Enterprise Linux Self-support サブスクリプションでは利用できません。
Red Hat Smart Management	Red Hat Smart Management によって、Red Hat Satellite と Red Hat Enterprise Linux の新しいクラウド管理サービス (SaaS サービス) にアクセスでき、Red Hat Enterprise Linux をオンプレミスまたはホスト環境で柔軟に管理できます。Red Hat Satellite は、コンテンツ管理、パッチ適用、プロビジョニング、サブスクリプション管理を可能にします。Red Hat Enterprise Linux のクラウド管理サービスには、脆弱性、コンプライアンス、システム比較などのホステッドサービスが含まれます。このサブスクリプションはソケットペアまたは仮想インスタンスペアをベースに購入できます。

製品	説明
Red Hat Systems Management Platform	
Red Hat Satellite Server	Red Hat Satellite Server は、Red Hat Enterprise Linux システムを効率的に管理するためのシステム管理プラットフォームです。パッチ管理、マルチシステム・プロビジョニング、構成管理、きめ細かなレポート機能を提供し、システムをセキュリティ保護し、各種基準に準拠させます。Satellite Server サブスクリプションは、Red Hat Smart Management を購入すると付与されます。
Red Hat Satellite Capsule Server	Red Hat Satellite Capsule Server は Red Hat Satellite Server と併用され、追加の帯域幅、コンテンツのフェデレーション、ローカルレベルへのコンテンツのキャッシュ機能を提供します。Red Hat Satellite Capsule Server サブスクリプションは、Red Hat Smart Management を購入すると付与されます。



RED HAT について

エンタープライズ・オープンソース・ソフトウェア・ソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備える Linux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、および Kubernetes テクノロジーを提供しています。Red Hat は、新規および既存 IT アプリケーションの統合、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、Red Hat が提供する業界トップレベルのオペレーティングシステムへの標準化、複雑な環境の自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスを提供する Red Hat は、Fortune 500 企業に信頼されるアドバイザーです。クラウドプロバイダー、システムインテグレーター、アプリケーションベンダー、お客様、オープンソース・コミュニティの戦略的パートナーとして、Red Hat はデジタル化が進む将来に備える企業を支援します。

アジア太平洋

+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア

1800 733 428

インド

+91 22 3987 8888

インドネシア

001 803 440 224

日本

0120 266 086
03 5798 8510

韓国

080 708 0880

マレーシア

1800 812 678

ニュージーランド

0800 450 503

シンガポール

800 448 1430

中国

800 810 2100

香港

800 901 222

台湾

0800 666 052



fb.com/RedHatJapan
twitter.com/RedHatJapan
linkedin.com/company/red-hat